

イエスを仰ぎつつ

へブライ人への手紙二章一―三節

こういうわけで、私たちもまた、……自分に定められている競争を忍耐強く走り抜こうではありませんか。信仰の導き手であり、完成者であるイエスを見つめながら、走りましょう。(1、2)

前の章で語られた信仰の偉人たちが今、信仰のレースを走り続けている私たちを見守り、声援を送ってくれていると著者は語ります。彼らは見物人ではなく、証人です。「神を信じ、寄り頼んで生きる人生に間違いはないよ」と証言し、励ましているというのです。信仰のレースには、ふさわしい走り方があります。第一は、走るのに邪魔となるものを捨てるということなのです。第二に、しっかりとゴールを見つめて走るということです。よそ見をしては、まっすぐ前に走ることは出来ません。私たちが見つめるべきは、「信仰の導き手であり、完成者である」主イエス・キリストです。主イエスは信仰のレースのゴールであり、同時に、伴走者でもあるということです。信仰の先輩たちに励まされ、ご臨在の主イエスを仰ぎ見つつ、私たちもこの信仰の生涯を最後まで走り抜こうではありませんか。